

## 第2回小松島「逆風」ハーフマラソン 576人が坂野町、和田島町を疾走

11月6日、「第2回小松島逆風ハーフマラソン」を開催し、県内外から576人の方が参加されました。

大会は、JAあいさい緑地を発着点として、和田島、坂野両町の田園地帯や大手海岸を走るハーフの部(参加者542人)と、赤石ふ頭を中心に走る3kmの部(参加者34人)の2コースが設定されました。ハーフの部は、大会の特長である紀伊水道から吹き付ける逆風に向かって和田島大手海岸沿いを走るコースです。当日は暖かく穏やかな絶好の日和の中、沿道のボランティアスタッフや地域住民の声援に手を振るなど、参加者、市民らが一体となって大会を大いに楽しみ盛り上げました。

1月23日の第1回大会は、新型コロナウイルスの感染拡大により、参加者がどこでも自由に走った記録を承認するオンライン大会のみでの開催となったため、実際にランナーが市内を走るのは今大会が初めてです。地域住民や市民、参加者の友人らが沿道で声を掛け、坂野小学校前ではバンドグループの演奏が大会を彩り、大手前海岸沿いでは大漁旗がなびくなど、まさに小松島ならではの大会となりました。

発着点のJAあいさい緑地では、県立小松島西高等学校食物科の生徒が走り終えたランナーにタヌキを模した手作りあんパン300個を配り、ランナーが笑顔で受け取り話しかける場面もありました。徳島県のキッチンカー「でり・ぱりキッチン阿波ふうど号」で調理した豚汁の提供や、市内整骨院有志によるランナーへのストレッチの施術など、様々なおもてなしが大会を彩り、会場はコロナ禍で久しぶりのマラソン大会を満喫したランナーたちの笑顔であふれていました。

みなさんおつかれさまでした



ゴールの瞬間



手作りパンを配る学生たち



施術を受けるランナー

本市のアンバサダーでタレントの福島和可菜さんは、ゲストランナーとして出場され、ランナーに声を掛けたり沿道の声援に応えながら、大会を完走しました。

11月5日、6日に第2回小松島「逆風」ハーフマラソンに関連するイベントを開催しました。

11月5日には、「逆風」ハーフマラソンの協賛企業である味の素(株)から「勝ち飯®勉強会～『勝てるカラダ』をつくるには～」と題し、アスリートの体を支える食とアミノ酸についてお話いただきました。その後のランニング教室では、ゲストランナーの福島和可菜さんが小中学生の皆さんにランニングフォームや鬼ごっこ・リレーを通して「走ることの楽しさ」を教えていただきました。

11月6日には、「逆風」ハーフマラソン終了後に福島和可菜さんによる講演会を開催しました。ランニングだけではなく、釣り・登山・トレイルランニングなどたくさんの「楽しい」「好き」が詰まったお話に皆さん聞き入っていました。

たくさんのご参加ありがとうございました!!

本市のアンバサダーで  
タレントの福島和可菜さんと  
いっしょにパチリ!



勝ち飯®勉強会の様子



マラソン教室の様子